

静岡
SHIZUOKA

ご存知ですか!? 箱根西麓野菜

最近、箱根西麓を産地とした様々な野菜を総称した「箱根西麓野菜」が、地産地消の言葉とともに注目されている。箱根山の東麓（小田原側）は、昔から温泉を中心とした保養観光地として発展してきたが、その西麓（三島・函南側）は駿河湾に続く緩やかな傾斜を利用した野菜の産地として、地道にその業を営んできた。標高が100～500mという高低差を活かした多種多様な野菜づくりは、伊豆に広がる多くの温泉宿でも重宝がられ、その質の高さも太鼓判が押されている。

箱根西麓の野菜が素晴らしい理由は、何と言っても土の質。その土は、火山灰土の特性である水はけの良さと、土が深く雨が降っても固まらない柔軟さを兼ね備え、土の胃袋と呼ばれる保肥力^①も高いと言われている。これらを踏まえた条件での栽培に適していると言われるのが根菜類^②であり、中でも馬鈴薯や甘藷は、知る人ぞ知る高級品である。

三島馬鈴薯とはメーカーを指し、関西方面へ7割、京浜方面へ2割と、そのほとんどが県外へ出荷され高級食材として使われている。県内、特に地元にはほとんど



「みしまコロッケ」と「三島馬鈴薯」



多種多様な「箱根西麓野菜」

出荷されていなかった馬鈴薯であるが、地産地消の流れや地元の人にも食べてもらいたいとの生産者の強い気持ちから「三島馬鈴薯祭り」が開催され、以降、地元供給に向け動き始め、今ではこのお祭りを楽しみにしている人も増えている。

また、「みしまコロッケ」という商品の開発が行なわれ、主原料となる馬鈴薯は三島馬鈴薯に限られるなど、こだわりのコロッケとして人気を集めている。

甘藷はかつて三島山北甘藷と呼ばれ、味が良いことから日本一の値で取り引きされた代物。時代の流れから衰退しかけていたが産地の伊豆佐野地区で復活し、「三島甘藷祭り」を開催することで、広く地元や近隣に向けピーアールしている。

この他にもたくさんの箱根西麓野菜があり、それぞれが皆、生産者自慢の野菜達である。私たち消費者は、旬のものを美味しく食べられることに感謝するとともに、これら新鮮・安心・安全な農産物を作り上げるため、ひたむきに努力する生産者の姿があることを忘れずにいたいものである。

①土がどのくらいの肥料を蓄えることができるかを示す能力。胃袋が小さい土に多く施肥しても、結局土に吸着されず流れてしまう
②馬鈴薯・甘藷・大根・人参・玉葱・里芋・牛蒡など、主に根を食用とする野菜

神奈川
KANAGAWA

地球に優しい廃棄物専用貨物列車 「クリーンかわさき号」に再び脚光

川崎市の北部と南部とを結ぶ廃棄物専用貨物列車「クリーンかわさき号」が、環境に優しい静脈物流として再び脚光を浴び始めた。同市の地形や交通事情をクリアするための苦肉の策だったが、リサイクル施設の整備に伴い運搬物も多様化。清掃車より二酸化炭素の排出量が少なく、地球温暖化防止にも役立つとあって、今後、他の自治体への普及も期待される。

クリーンかわさき号は、土・日・祝日を除く毎日一往復、JR貨物（武蔵野線）梶ヶ谷貨物ターミナル駅―神奈川臨海鉄道（浮島線）末広町駅間を運行している。延長は23キロ。廃棄物の年間運搬量は約5万6,500トン。川崎市の試算では、清掃車による運搬と比べて年間約172トンの二酸化炭素の排出量削減になるという。

運行開始は95年10月。市北部の人口急増に伴う廃棄物の爆発的な増加で、90年に「ごみ非常事態宣言」が出されたのがきっかけだった。市は、ごみの減量化やリサイクルを市民に呼びかける一方、老朽化した廃棄物処理場を再編し、南部の東京湾臨海部に浮島処理センターを設けた。

しかし、北部から南部まで清掃車を走らせるには、南北に長い同市独特の地形や市中心部の交通渋滞がネックとなった。苦肉の策として、市はJR貨物に武蔵野線の利用を働きかけたが、JR貨物のごみの臭気や飛散を心配して色よい返事をしなかったという。そこで、市は清掃車のノウハウを応用して専用コンテナを製作し、全国の自治体に先駆けてJR貨物の了解を取り付けた。



川崎市の南北を一日一往復する「クリーンかわさき号」

専用コンテナは、臭いや汚水などが漏れないよう、開口部の密閉性を強化。側面にはキャラクターの「キレイくん」などを描き、親しみを持たせた。生ごみなどの一般ごみ、焼却灰、粗大ごみの3種類でスタートした運搬物は、リサイクル施設の整備に伴い、空き瓶、空き缶を追加。03年からは、ペットボトルも扱っている。この間、JR貨物の輸送網を使って、阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震で発生した廃棄物を受け入れ、関係自治体から感謝されたこともある。

一方、同市は国連環境計画と連携して、アジア太平洋地域エコタウンプロジェクトに協力。臨海部に立地する企業は、廃プラスチックからアンモニアを回収したり、ミックスペーパーを再生するなどの取り組みを始めている。これらが本格化すれば、クリーンかわさき号の出番はさらに増えそうだ。

鉄道による貨物輸送は、他の輸送手段に比べて安全性、確実性、環境への優しさなどで一步先を行く。コスト面でも、ガソリン価格高騰などにより競争力が出てきたことから、廃棄物運搬など静脈物流への普及も期待される。その先駆けとして、クリーンかわさき号の注目度は、今後ますます高まりそうだ。